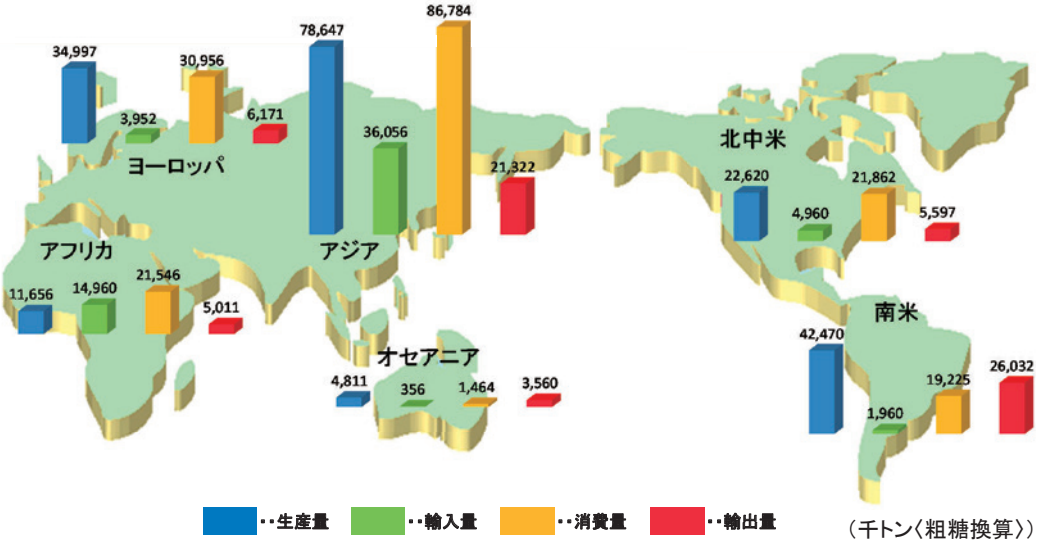
需給動向

砂糖の国際需給

調査情報部　坂上　大樹

1．世界の砂糖需給（2018年６月時点予測）

図１　絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2017/18年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2018」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか22カ国を含む。

表１　世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、％）

年 度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	54,982	160,315	56,023	164,755	56,244	50,321	30.5
2013/14	62,828	184,058	58,323	175,768	61,044	68,396	38.9
2014/15	68,396	183,717	59,707	177,548	62,081	72,191	40.7
2015/16	72,191	175,955	67,776	180,163	69,077	66,683	37.0
2016/17	66,683	180,577	67,755	179,536	69,746	65,732	36.6
2017/18（2018年６月予測）	65,732	195,201	62,244	178,807	67,693	76,676	42.9

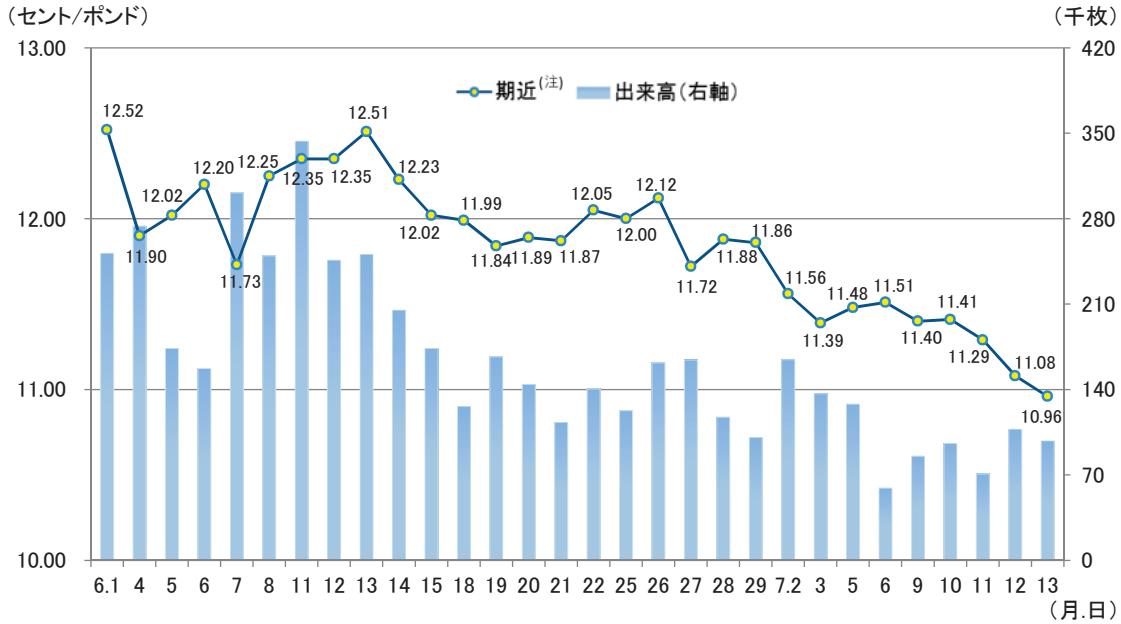
資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2018」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：2014/15年度および2015/16年度は推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値。
注３：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
注４：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2018年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2018年７月号をご参照ください。
「世界の砂糖需給」　：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001770.html
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001771.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（6/1 ～ 7/13）
～値動きが激しく、1カ月半で1.5セント以上も下落～

図２　ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：６月は期近７月限、７月は10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（７月限（がつぎり））の2018年６月の推移を見ると、ブラジルのストライキが５月末に収束したこともあり、週明けの４日は１ポンド当たり11.90セント(注)まで値を下げ、2017年４月以来の大きな下落率となった。その後反発し、６日には同12.20セントまで上昇したものの、ブラジルのエタノール価格が下落し、砂糖仕向けが増えるとの観測から、翌７日は同11.73セントまで値を下げた。しかし、売られ過ぎたとの見方から買い戻され、13日には同12.51セントまで値を上げ、その後、11セント台後半から12セント台前半でもみ合いが続いた。27日は、レアル安の進行により輸入品価格の上昇を通じたブラジル国内のインフレ懸念が強まったことなどから売られ、同11.72セントまで値を下げた。28日は小幅に値を上げ、29日に同11.86セントで７月限の納会を迎えた。

７月に入り期近限月が10月限に切り替わると、ブラジルでのエタノール価格の下落に加え、インドで増産が続くとの見通しから、２日は同11.56セント、翌３日は同11.39セントと続落した。６日は小幅ながら値を上げ、同11.51セントの値を付けたものの、世界的な供給過剰の中で上昇要因が見当たらないため、じりじりと値を下げる展開となり、11日には同11.29セントまで値を下げた。そして、その後下げ足を早め、13日には2018年４月以来の安値となる同10.96セントまで値を下げた。

（注）１ポンドは約453.6グラム、セントは１米ドルの100分の１。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2018年７月時点予測）

本稿中の為替レートは2018年６月末日TTS相場の値であり、1インド・ルピー＝1.77円、1ユーロ＝129円（129.41円）である。

ブラジル

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：857万ha（前年度比1.1％増）
生 産 量：６億4086万トン（同1.7％減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：4149万トン（同0.4％減）
輸出量：3079万トン（同2.2％増）

2017/18年度、砂糖生産量はほぼ横ばい、輸出量はわずかに増加の見込み

英国の調査会社 LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2018年７月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2017/18砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、857万ヘクタール（前年度比1.1％増）とわずかな増加が見込まれている（表２）。しかし、サトウキビ生産量は、北東部で乾燥が長く続いた影響などから６億4086万トン（同1.7％減）とわずかな減少が見込まれている。砂糖生産量（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）は、サトウキビの砂糖仕向け割合の増加などにより、4149万トン（同0.4％減）とほぼ横ばいと見込まれている。砂糖輸出量は、国際価格が下落しているものの、国内消費量の低迷などから、在庫を抱えるリスクを回避したいとの思惑が働き、3079万トン（同2.2％増）とわずかな増加が見込まれている。

エタノール生産量、2030年には540億リットルに倍増

政府関係機関の調査によると、再生可能エネルギー促進政策「Renova Bio」プログラムにより、今後、エネルギー関連産業への投資の活発化が予想されるほか、ガソリンとエタノールの混合燃料で走行可能なフレキシブル燃料車の普及に伴うエタノール販売量の増加などから、エタノール生産量は2030年までに540億リットルに達する可能性があると報告された。現在、ブラジルのエタノール生産量は年間約270億リットルで、主にサトウキビが原料に使われているが、今後はトウモロコシを原料とするエタノール生産も拡大すると予測されている。サトウキビとトウモロコシは収穫期が異なるため、双方を原料としてエタノールが生産できる工場を整備できれば、現在、エタノール生産のほとんどを担っている製糖工場にとっては通年操業が可能となり、生産者にとっては作付けの選択が広がり所得の向上が期待できる。

EUとのFTA交渉、合意に向け重要な局面に差し掛かる

７月中旬、ブラジルなど南米４カ国で構成される南米南部共同市場（メルコスール）とEUによる自由貿易協定（FTA）の交渉会合が、ベルギーのブリュッセルで開催された。現地報道によると、アルゼンチンのホルヘ・マルセロ・フォリー外相は「われわれは合意の均衡点に達し、今後は最終的な詰め

の作業に入るだろう」と述べ、また、EUの交渉官は９月には合意に達するのではないかという見方を示したとされる。EU側は砂糖やエタノール、牛肉の輸入増加に対する農業団体の反発が強く、メルコスコール側は自動車市場のEUへの開放に懸念を示していたため、これまでの交渉は難航していたが、今回の会合でようやく合意に向け大きく前進した。

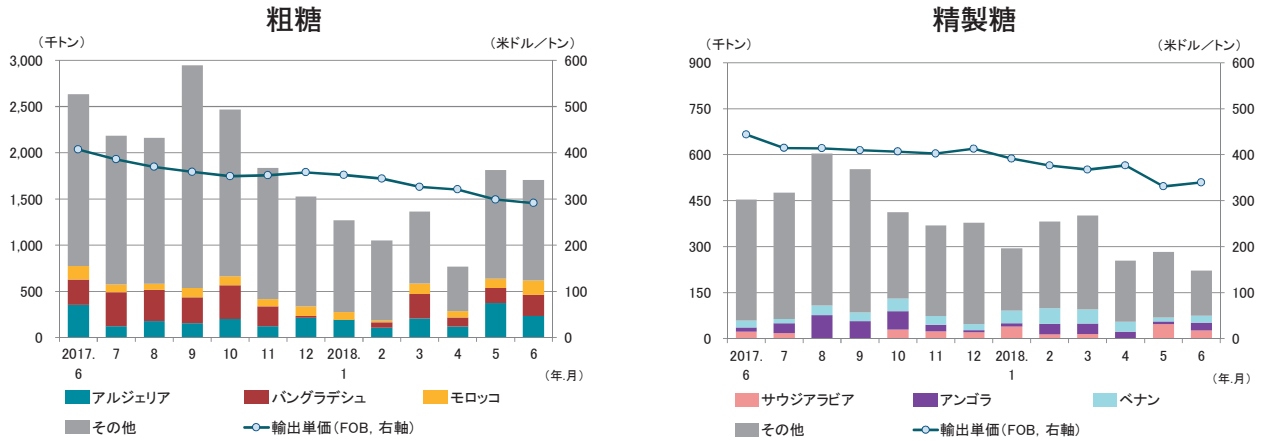
表２　ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（６月予測）	2017/18（７月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		8,784	8,188	8,474	8,570	8,570	1.1
サトウキビ生産量		632,127	666,824	651,841	640,860	640,860	▲ 1.7
砂糖	生産量	38,147	36,472	41,670	41,490	41,490	▲ 0.4
	輸入量	1	1	1	2	2	96.2
	消費量	12,625	12,057	11,502	11,295	11,295	▲ 1.8
	輸出量	24,871	26,023	30,117	30,788	30,788	2.2
	期末在庫量	2,346	739	791	200	200	▲ 74.7
	期末在庫率	18.6	6.1	6.9	1.8	1.8	5.1 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

インド

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：483万ha（前年度比11.6%増）
生 産 量：３億9332万トン（同28.5%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：3483万トン（同59.4%増）
輸出量： 259万トン（同16.2%増）

2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ生産については、収穫面積は483万ヘクタール（前年度比11.6%増）とかなりの増加が見込まれ、生産量は主要生産州で適度な降雨に恵まれたことか

ら、３億9332万トン（同28.5％増）と大幅な増加が見込まれている（表３）。砂糖生産量は、サトウキビの増産を受け、3483万トン（同59.4％増）と大幅な増加が見込まれている。生産量の増加に伴う在庫の積み上がりを解消するため、政府が製糖業者に対し200万トンの最低輸出義務を課すなどの措置を講じていることから、砂糖輸出量は259万トン（同16.2％増）と大幅な増加が見込まれている。

ISMA、2018/19年度の生産見通しを公表

インド製糖協会（ISMA）が７月に公表した2018/19砂糖年度の生産見通しによると、収穫面積は544万ヘクタール（前年度比7.8％増）とかなりの増加が見込まれ、砂糖生産量は3500万～3550万トンに達すると見込まれている。砂糖生産量を州別に見ると、最大産地のウッタルプラデシュ州は収穫面積の増加に加え、サトウキビの高収量品種の普及により前年度と比べ約100万トン増の1330万～1350万トン、マハラシュトラ州は前年度並みの1100万～1150万トン、カルナタカ州は前年度と比べ約80万トン増の448万トンと見込まれている。ISMAは、「これらは降雨やかんがい用水の利用などについて最適な条件で予測したものである」と説明し、最新の長期気象予報を考慮した、より精度の高い生産見通しを９月ごろに発表するとしている。

政府、サトウキビの買い取り価格の引き上げを決定

政府は７月、2018/19砂糖年度から現行のサトウキビの適正価格（FRP）を20ルピー引き上げ、100キログラム当たり275ルピー（487円）とする案を閣議決定した。FRPは、製糖業者の生産コストなどを勘案して定められており、この水準を下回る価格でサトウキビを買い取ることは違法とされる。なお、新しいFRPでは、プレミアム価格が上乗せされる原料の基準糖度（単位重量当たりの砂糖回収率）も、現行の9.5％から10％に引き上げる見直しが行われ、価格引き上げによる製糖業者への影響を軽減する措置も図られた。なお、基準糖度が10％を超える原料は、0.1％ごとに100キログラム当たり27.5ルピー（49円）が上乗せされる。

今回の決定を受け、ISMAは声明を発表し、「砂糖１キログラム当たりの卸売価格（工場出荷時）が少なくとも35ルピー（62円）で推移しない限り、引き上げられたFRPを支払う財源を確保することができない」との懸念を示した。

表３　インドの砂糖需給の推移

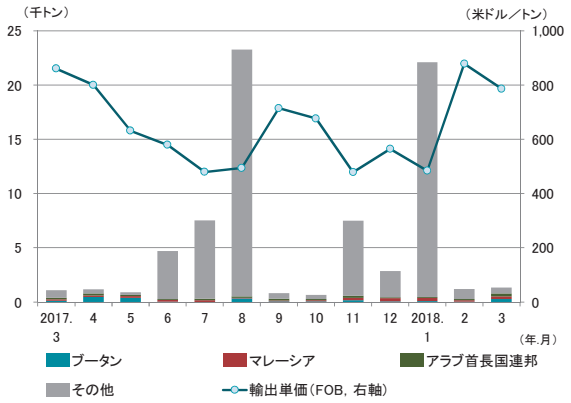
（単位：千ha、千トン、％）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（６月予測）	2017/18（７月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		4,942	4,806	4,327	4,832	4,827	11.6
サトウキビ生産量		378,969	356,871	306,070	392,719	393,320	28.5
砂糖	生産量	30,529	27,091	21,848	34,289	34,828	59.4
	輸入量	1,509	2,146	2,458	2,000	2,000	▲ 18.6
	消費量	25,920	26,784	26,568	27,216	27,540	3.7
	輸出量	2,468	3,955	2,233	2,544	2,594	16.2
	期末在庫量	9,871	8,370	3,874	10,404	10,569	172.8
	期末在庫率	38.1	31.2	14.6	38.2	38.4	23.8 ポイント増

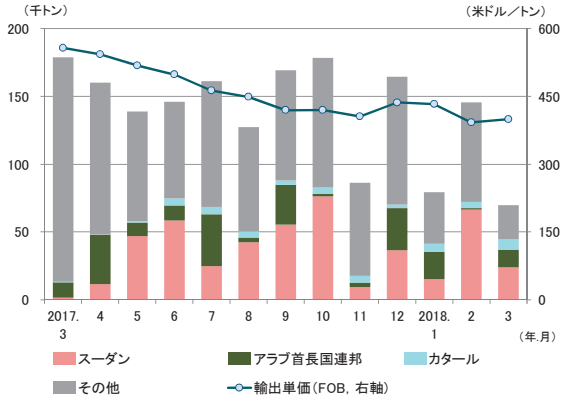
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

中　国

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：123万ha（前年度比4.5%増）
生 産 量：7678万トン（同4.2%増）
【てん菜】
収穫面積：19万ha（同10.7%増）
生 産 量：959万トン（同8.7%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】
生産量：1115万トン（同11.0%増）
輸入量：　544万トン（同6.6%減）

2017/18年度、砂糖生産量はかなり増加、輸入量はかなり減少の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）においては、サトウキビについて、収穫面積は123万ヘクタール（前年度比4.5%増）、生産量は7678万トン（同4.2%増）と、ともにやや増加が見込まれている（表４）。てん菜について、収穫面積は19万ヘクタール（同10.7%増）、生産量は959万トン（同8.7%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。砂糖生産量は、依然として消費量を大きく下回る水準ではあるものの、1115万トン（同11.0%増）とかなりの増加が見込まれている。砂糖輸入量は、砂糖に対する追加関税措置（後述）の影響を受け、544万トン（同6.6%減）とかなりの減少が見込まれている。

中国砂糖協会によると、2017年10月から翌６月までの累計砂糖生産量は1031万100トンで、うち甘しゃ糖は916万400トン、てん菜糖は114万9700トンとなった。

中国政府、追加関税措置をすべての国に適用へ

中国政府は７月16日、タイやブラジル、豪州などから輸入する砂糖に対し課している追加関税措置について、８月からすべての国に適用すると発表した。

近年の中国における砂糖の輸入増加は、旺盛な砂糖消費に支えられたものだけでなく、労働費の上昇によって生産コストが上昇し、輸入品との間に非常に大きな価格差が生まれたことも大きな誘因となったと指摘されていた。このため、政府は2017年５月からの３年間、海外から輸入される関税割当外（税率50%）の砂糖に対し最高45%の関税（注）を上乗せする措置（追加関税措置）を発動した。これまで

この措置の対象は、輸入量の多い国に限定され、約190の途上国および地域は免除されていたが、今後、この免除措置が撤廃されることとなる。

現地報道によると、追加関税措置の発動以降、砂糖生産量がそれほど多くない国からの輸入量が飛躍的に伸びていたが、国内の需要量を満たすためには、やはり安定して供給量が確保できるタイやブラジルなどからある程度輸入せざるを得ないとの機運が生まれつつあった。このため、関係者の間では今回の措置について、国内砂糖産業への影響に配慮しつつ、「公平な競争」で調達の安定性を確保するための苦肉の策だと見ている。

（注）追加関税の税率は１年目が45%、２年目が40%、３年目が35%と段階的に引き下げられることとなっている。

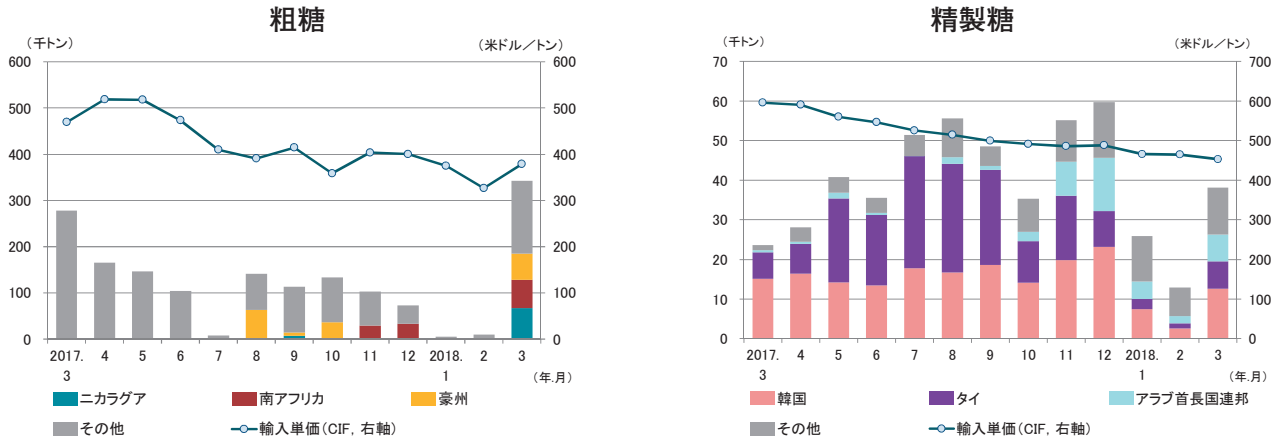
表４　中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（６月予測）	2017/18（７月予測）	前年度比（増減率）
サトウキビ収穫面積		1,457	1,311	1,178	1,231	1,231	4.5
サトウキビ生産量		85,037	74,950	73,690	76,780	76,780	4.2
てん菜収穫面積		130	136	168	186	186	10.7
てん菜生産量		6,416	6,880	8,820	9,590	9,590	8.7
砂糖	生産量	11,412	9,405	10,041	11,028	11,147	11.0
	輸入量	6,759	7,910	5,826	5,315	5,443	▲ 6.6
	消費量	16,680	16,847	16,847	16,931	16,931	0.5
	輸出量	71	181	146	133	133	▲ 8.9
	期末在庫量	11,638	11,926	10,800	9,928	10,326	▲ 4.4
	期末在庫率	69.8	70.8	64.1	58.6	61.0	3.1 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

E　U

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】
収穫面積：173万ha（前年度比18.2%増）
生 産 量：１億3459万トン（同25.9%増）

【砂糖（てん菜糖）】
生産量：2153万トン（同22.7%増）
輸出量： 359万トン（同2.4倍）

2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

生産割当廃止後の初年度となる2017/18砂糖年度（10月～翌９月）は、生産意欲の増進を受け、てん菜の収穫面積は173万ヘクタール（前年度比18.2%増）、生産量は１億3459万トン（同25.9%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている（表５）。これにより、砂糖生産量は2153万トン（同22.7%増）、輸出量は359万トン（同2.4倍）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

てん菜の主要生産国であるフランスでは、今年の春先の天候不順で播種（はしゅ）が３週間程度遅れ、生育への影響が懸念されたものの、その後の天候回復により、７月時点では前年並みの生育状況となった。

英国政府、TPP11参加に向け意見を募集

現地報道によると、英国のリアム・フォックス国際通商相は７月18日、中小企業団体が主催した講演会で、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（TPP11協定）への参加に関し、広く意見を募集する考えを明らかにした。同相の発言は、EU離脱後の英国の新たな通商戦略において２国間以外の自由貿易協定も模索し、成長著しい地域において英国が中心的な役割を担うことを視野に入れているとの認識を示したものとみられる。

業界団体からは、今回の国際通商相の発言や、政府が自由で公平な貿易の実現に向けた姿勢を見せていることについて一定の評価をする一方、EUとの関係の再構築が優先課題と指摘する声もある。

卸売価格、最安値を更新

欧州委員会のまとめによると、2018年４月時点の白糖１トン当たりの平均卸売価格は362ユーロ（４万6698円）となり、１月に記録した371ユーロ（４万7859円）という最安値を更新した。

欧州最大の製糖業者であるSuedzucker社の最高経営責任者は、「世界的な生産過剰により経営環境は厳しく、現在の取引価格はほとんどの製糖業者が利益を出せないほどの水準である」と述べ、第１四半期の営業利益が対前年同期比で49%減少したことを明らかにした。このため、同社はコスト削減を中心に据えた経営改革を断行するとともに、需要拡大が見込まれる中国などアジア市場への輸出拡大に意欲を示した。

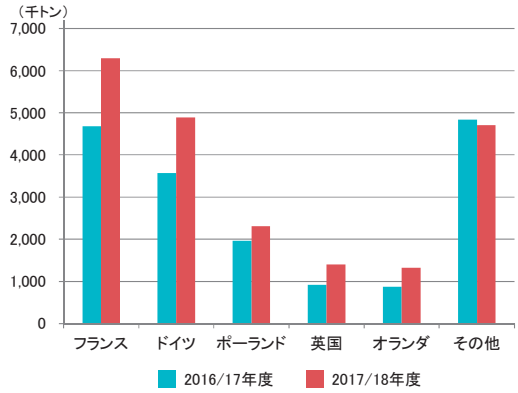
表５　EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

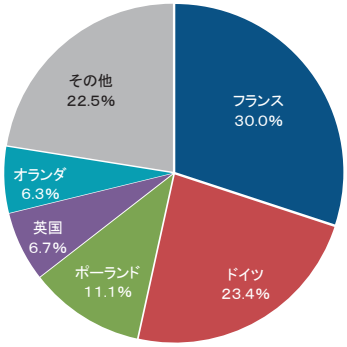
年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（６月予測）	2017/18（７月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,602	1,364	1,463	1,729	1,729	18.2
てん菜生産量		129,154	94,986	106,865	134,588	134,588	25.9
砂糖	生産量	19,362	14,937	17,554	21,543	21,533	22.7
	輸入量	3,378	3,651	3,115	1,631	1,631	▲ 47.7
	消費量	19,620	19,481	18,816	18,332	18,320	▲ 2.6
	輸出量	1,558	1,501	1,510	3,805	3,587	137.6
	期末在庫量	4,307	1,913	2,256	3,272	3,513	55.7
	期末在庫率	22.0	9.8	12.0	17.8	19.2	7.2 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合（2018年４月時点）



資料：欧州委員会
注１：精製糖換算。
注２：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2017/18年度。

４. 日本の主要輸入先国の動向（2018年７月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14－110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14－200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この２カ国で９割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として３カ月に１回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。

豪　州

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：38万ha（前年度比2.4%増）
生 産 量：3350万トン（同8.2%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：448万トン（同7.0%減）
輸出量：359万トン（同10.5%減）

2017/18年度、サトウキビの減産に伴い、砂糖生産量、輸出量ともに減少の見込み

2017/18砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、38万ヘクタール（前年度比2.4%増）とわずかな増加が見込まれている。一方、生産量は、2017年３月に上陸したサイクロンにより、少なくとも1300ヘクタール、サトウキビ生産量に換算して50万トン程度の被害を受けたことや、前年度が記録的な高収量であったことなどから、3350万トン（同8.2%減）とかなりの減少が見込まれている（表６）。これに伴い、砂糖生産量は448万トン（同7.0%減）とかなりの減少が見込まれている。輸出量についても、主要輸出先国である中国が追加関税措置を実施していることなどが影響して、359万トン（同10.5%減）とかなりの減少が見込まれている。

6月から本格的な収穫作業が始まる

オーストラリア砂糖生産工場連絡会（Australian Sugar Milling Council）(注1) によると、６月から始まったサトウキビの収穫作業は前年度より早いペースで進み、７月中旬までに製糖工場で圧搾されたサトウキビの量が666万3042トン（前年同期比18.1%増）に達した。これは、2018/19砂糖年度に見込まれているサトウキビ生産量（3338万1000トン）の５分の１がすでに処理されたことになる。また、同時点のCCS（可製糖率：サトウキビのショ糖含有率）も、12.7%（同0.9ポイント増）と前年度よりも高い値で推移している。クイーンズランド州北部では2018年３月上旬、数日間降り続いた豪雨の影響で大規模な洪水が発生し、サトウキビの生産地帯が冠水するなどの被害を受けたことから品質低下が懸念されたが、今のところその影響はほとんどみられない。

（注１）豪州の製糖業者が加盟する団体。

世界砂糖連盟、国際相場の低迷を受け意見交換

世界砂糖連盟（Global Sugar Alliance）(注2) は７月、スイスのジュネーブで会合を開き、低迷する国際相場への対応について意見交換を行った。同連盟の会長を務める豪州のグレッグ･ビーセル氏は「政府の支援を受け輸出されているインドやパキスタンの砂糖 (注3) は、低迷する国際相場にとって大きな脅威となっている。現在の価格は、われわれのような効率的な生産を行う国でさえ採算が取れない水準になっている」と述べ、各国政府と緊密に連携してインドとパキスタンの両国に対しWTO規則を順守するよう求めていく方針だと語った。

（注２）豪州、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、グアテマラ、南アフリカ、タイの製糖業者が加盟する組織。砂糖の貿易自由化の推進、世界の砂糖取引環境の改善などに取り組んでいる。
（注３）インド政府は2018年３月、製糖業者に200万トンの最低輸出義務を課し、５月には生産者に補助金を交付する計画を公表した。パキスタン政府は、砂糖の国内供給量を調整するため、2018年１月から輸出補助金の対象数量を50万トンから200万トンに引き上げた。

表６　豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（６月予測）	2017/18（７月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		378	382	368	373	377	2.4
サトウキビ生産量		32,361	34,941	36,506	33,447	33,495	▲ 8.2
砂糖	生産量	4,547	4,889	4,816	4,481	4,481	▲ 7.0
	輸入量	164	164	67	30	30	▲ 55.5
	消費量	1,187	1,196	1,172	1,125	1,125	▲ 4.0
	輸出量	3,412	4,384	4,004	3,585	3,585	▲ 10.5
	期末在庫量	1,795	1,267	974	775	775	▲ 20.5
	期末在庫率	151.2	105.9	83.1	68.9	68.9	14.3 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タ　イ

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：171万ha（前年度比8.2%増）
生 産 量：１億3493万トン（同45.2%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：1559万トン（同46.3%増）
輸出量：1042万トン（同40.9%増）

2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は、キャッサバなどの他作物からの転作を受け、171万ヘクタール（前年度比8.2%増）とかなりの増加が見込まれている。生産量は、２年連続で続いた干ばつからの回復による単収の増加などを受け、１億3493万トン（同45.2%増）と大幅な増加が見込まれている（表７）。砂糖生産量は、好天による製糖歩留まりの向上もあり、1559万トン（同46.3%増）と大幅な増加が見込まれている。輸出量については、急激な増産をすべて吸収できる国内需要がないことから、1042万トン（同40.9%増）と大幅な増加が見込まれている。

政府、TPP11協定参加への意向を改めて表明

日本とタイの両政府は７月18日、菅義偉官房長官やタイのソムキット・チャトゥシーピタク副首相らによる第４回ハイレベル合同委員会を東京で開催した。委員会終了後、タイ政府はTPP11協定への参加の意向を改めて表明するとともに、日本政府はタイが参加するために必要な支援を行うことを約束する旨の共同声明を発表した。また、東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟10カ国に日本、韓国、中国、インド、豪州、ニュージーランドの６カ国を加えた東アジア地域包括的経済連携（RCEP）についても、高い水準の貿易自由化と、質の高いルールの整備を実現する協定をできるだけ早く妥結できるよう、両国が緊密に協力していくことを確認した。

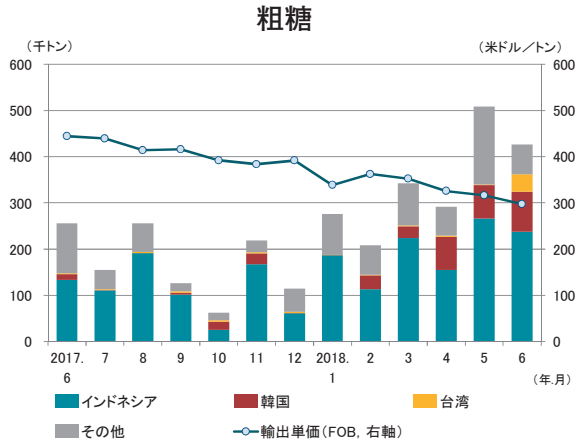
表７　タイの砂糖需給の推移

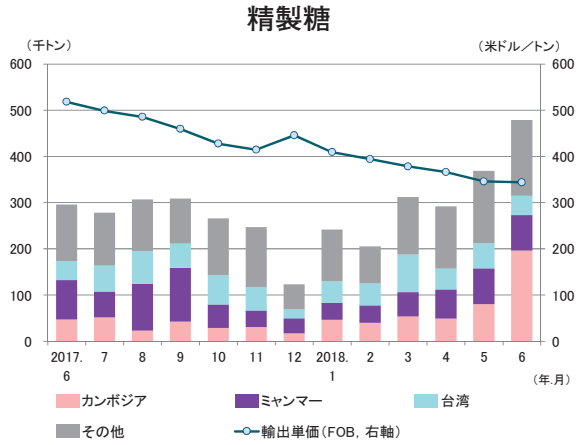
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（６月予測）	2017/18（７月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,535	1,644	1,578	1,752	1,708	8.2
サトウキビ生産量		105,959	94,047	92,951	134,900	134,929	45.2
砂糖	生産量	12,036	10,402	10,657	15,635	15,586	46.3
	輸入量	0	1	0	1	1	558.4
	消費量	3,262	3,272	3,283	3,672	3,672	11.8
	輸出量	8,186	7,932	7,393	10,969	10,419	40.9
	期末在庫量	4,771	3,970	3,951	4,946	5,447	37.9
	期末在庫率	146.3	121.3	120.3	134.7	148.3	28.0 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）　タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移





資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

南アフリカ

2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：28万ha（前年度比10.0%増）
生 産 量：1886万トン（同25.1%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：215万トン（同25.4%増）
輸出量： 80万トン（同3.6倍）

2017/18年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（４月～翌３月）は、サトウキビ収穫面積は28万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量は1886万トン（同25.1%増）と深刻な干ばつの影響により大きく落ち込んだ前年度をかなり上回ると見込まれている（表８）。このため、砂糖生産量は215万トン（同25.4%増）、輸出量は80万トン（同3.6倍）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

砂糖の輸入関税、徴収漏れが判明

現地報道によると、2017年４月から９月までに輸入された砂糖について、本来適用すべき税率より

も低い税率が適用され、そのうち数週間は無税で通関されていたことが判明した。政府は、具体的な金額を公表していないものの、貿易統計などから試算すると、数億南アフリカ・ランド（１南アフリカ・ランド＝約８円）を超える額が徴収されなかったとみられる。

政府は「行政手続き上のミス」と釈明したものの、事態は沈静化せず、６月下旬に納得できない生産者や製糖関係者らによる大規模な抗議デモが発生した。さらに、2018年４月から糖類を含む飲料に課税を開始したことで、国内の砂糖産業は苦戦を強いられていることもあり、今回の件に端を発して政府や政策への不満が表面化しつつある。

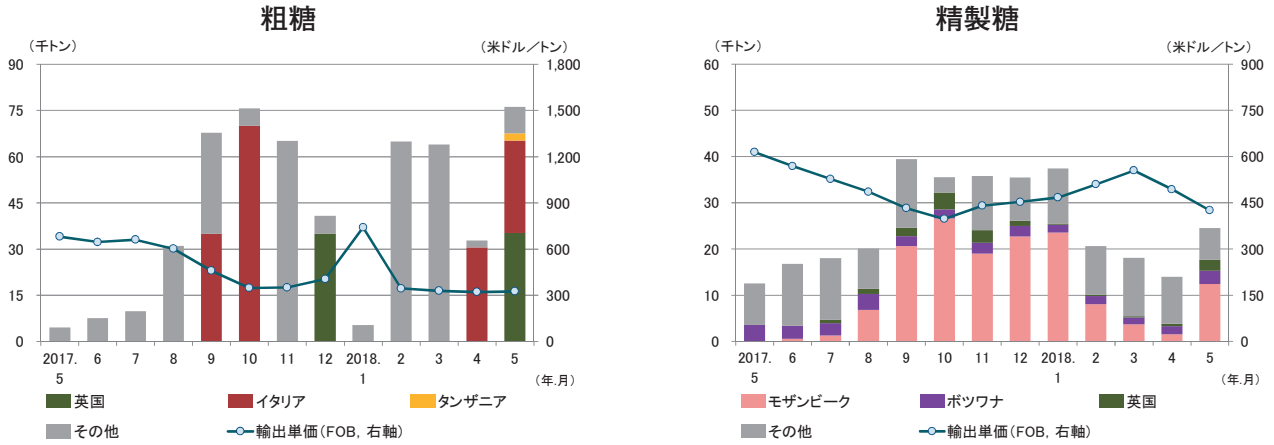
表８　南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（４月予測）	2017/18（７月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		273	245	250	275	275	10.0
サトウキビ生産量		17,756	14,861	15,075	17,388	18,863	25.1
砂糖	生産量	2,288	1,772	1,712	2,148	2,148	25.4
	輸入量	475	631	1,137	1,135	1,152	1.3
	消費量	2,111	2,353	2,386	2,418	2,418	1.3
	輸出量	795	292	225	786	801	255.7
	期末在庫量	591	349	586	665	666	13.6
	期末在庫率	28.0	14.8	24.6	27.5	27.6	3.0 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）　南アフリカの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.44（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。